

## 令和元年度 第3回長野県教科用図書選定審議会議事録（案）

- 1 日 時 : 令和元年8月5日（月）午前14時～16時半  
\*教科書採択を行う定例教育委員会の期日が8月22日から8月8日に変更となったため、第3回審議会の期日も、予定していた8月19日から8月5日に変更して行った。
- 2 会 場 : 長野県保健福祉事務所 301号室
- 3 出席者 ○委員 : 北沢委員、清水委員、日向委員、栗津原委員、萩原委員、小林雅彦委員、石井委員、木内委員、小平委員、田仲委員  
○事務局 : 三輪教育次長、佐倉学びの改革支援課長 他

### 4 内 容

#### (1) 議事

#### ① 義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条第2項に基づく、選定審議会の意見聴取について

##### ○ 県立特別支援学校小学部において使用する小学校用教科書の選定図書について

##### 長野盲学校、松本盲学校、長野ろう学校、松本ろう学校

【日向委員】長野盲学校、松本盲学校で希望されている国語を見たが、確かに光村図書の5年生に点字についての題材が入っており、更に学習が進むと感じ、採択の理由がわかった。理科については、長野ろう学校、松本ろう学校で、信教の教科書を希望しているが、信教では見た感じで写真が多かったり、レイアウトがはっきりしたりしていてわかりやすい。ろう学校のお子さんは視覚的な点で情報が得やすい。希望の理由がよくわかった。

【北沢委員】それぞれに教科書の特徴があるが、それぞれの学校の児童の実態に応じて、その視点から各校で選ばれているので適切かと思う。

【職務代理】その他、よろしいか。報告のあった4校が希望する小学校用教科書について、事務局の提案通り、定例教育委員会への提出を承認してよいか。

【委 員】よい。

##### 花田養護学校、稲荷山養護学校、若槻養護学校、寿台養護学校

【栗津原委員】58ページ、花田養護学校の英語には、希望意見の下から3行目「中学部で使っている教科書が同じ「東京書籍」であることから」と書かれているが、採用希望が三省堂になっている、確認が必要。

【事務局】花田養護学校の英語については、中学部で使用している教科書が「三省堂」であり、書き間違いであることを確認している。「東京書籍」を「三省堂」に訂正を。

【栗津原委員】意見書の内容なので各学校の判断だとは思いますが、例えば47ページの花田養護学校の「国語」の記述で、児童の実態として、「イメージをしずらい児童や経験を重ねずらいお子さんがいる」という表記がある。また、24ページの長野養護学校の記述では「言葉で論理的に考える力が弱い」、36ページの松本ろう学校の記述など、断定的に書かれているところがあって、内容としてどうなのか。例年こうであればいいが、例えば「言葉で論理的に考えることが苦手な児童もいる」といったように、「苦手な児童もいる」など、実態に即した表記でいいとは思いますが、表記の仕方についてどうか。

【事務局】それぞれの学校でお子さんたちを見た時にそういう傾向があるとして書いていただいたもの。そこにいる全員がそうかというところとそうでない部分もある。担当者会の折に記述の際に配慮していただくように伝えたい。

【萩原委員】稲荷山養護の小学部の英語が東書、中学部だと三省堂になっている、1校だけ小・中で採択の教科書が違うということは、どういう経過があってこうなっているのか。

【事務局】その部分については確認をしていない。中学校の方は新しい検定合格本がなく、今年度採

択する現行の学習指導要領に基づいた教科書が、来年度1年のみで使用で、来年また新しい学習指導要領に基づいた教科書の採択があるということも、理由としてあるのかと思う。

【職務代理】その他に意見はあるか。

【委員】なし。

## ② 県立中学校及び県立特別支援学校中学部において使用する「特別の教科 道徳」を除く中学校用教科書の選定図書について

【小林委員】小学部もそうだが、現場の、子どもの実態をわかっている先生方の声を一番尊重したい。事情はよく分かったのでよい。

【職務代理】その他意見、感想等はあるか。

【委員】なし。

## ③ 県立特別支援学校小・中学部において教科用図書として使用する一般図書の選定図書について

【石井委員】各学校で希望が出されている冊数で、稲荷山養護学校の一般図書の冊数がとても多い。冊数がどういうバランスになっているのかお聞きしたい。何か理由があるか。

【事務局】稲荷山養護学校には肢体不自由のお子さんと併せて知的障害のお子さんも多く通っている。検定済み教科書が使えないケースが多く、また、児童生徒の人数も関係している。

【日向委員】資料7ページの⑤の「一般図書一覧」外の一般図書について、本屋さんに行って、こっちの方があっていると選んだ本が200冊あるが、ふさわしくないという17冊以外の本はよしということか。

【事務局】今のところは在庫があるが、希望が多くあれば、数が足りなくなる図書がある可能性もある。今の時点では17冊以外の図書はよいと考える。

【職務代理】事務局の提案どおり定例教育委員会に提出することを承認してよいか。

【委員】よい。

## ④ 教科用図書の選定図書に関する教育委員会への答申（案）について

### (2) 答申

#### 感想等

【北沢委員】資料作成や、それぞれの教科書に目を通すなど大変だったと思うが、適切にさせていただき、本審議会でも審議ができた。

【清水委員】教科書が選ばれる過程では、多くの方が苦勞されている。いろいろな方からのご意見をいただくことはとても大事だ。よい経験になった。

【日向委員】日々の授業で使う教科書を違う視点で見ながら授業に臨みたい。

【栗津原委員】各教科書会社が学習指導要領を元に教科書作りをしているわけだが、我々がどのようにそれを選定して、子どもたちの実態に応じた支援に結びつけるのかは大切なことだと感じた。どのように現場で生かしていくか考えたい。

【荻原委員】各地区でも採択に関して慎重審議をし、県の方でもリーダーシップをとっていただく中で採択でき、活用しながら長野県の教育ができるということ。審議会参加させていただいてよかった。

【小林(里)委員】特別支援学校の選定から感じた事だが、それぞれの障がいに応じて、各学校の先生方が、「あの子」という対象を見ながら選定している。例えばユニバーサルデザインということから見ても、特別支援学校の先生方の意見は、一般の先生方にも知っていただきたい大切な視点と感じた。

【石井委員】実際に子どもたちを現場で見ている先生方と共に参加し、大切に考えていることがわかった。よい経験させていただいた。

【木内委員】改めて、みんな等しく学ぶ権利があるということからスタートし、先生方がそれを見守っ

てくださっていて、教科書を作っている方がそういった観点で作ってくださっていることがありがたいと思った。自分の中学校3年生の子どもが、そういう思いでまた学びに向かっていくように見ていきたいと改めて思った。

【小平委員】子どもの手に渡るまでたくさんの手がかかっていることがよくわかった。特別支援学校の採択についても、とても丁寧に見ていることがよくわかった。自分の子どもは先生になろうと学んでいる。よい先生になってほしいと思う。参加できてよかった。ここに来るのが大変だった。みんな長野市に住んでいるわけではないので、場所を詳しく教えてほしかった。

**\* 議事内容については、全員意義なく承認されました。**